

料金後納
郵便

やまもり通信

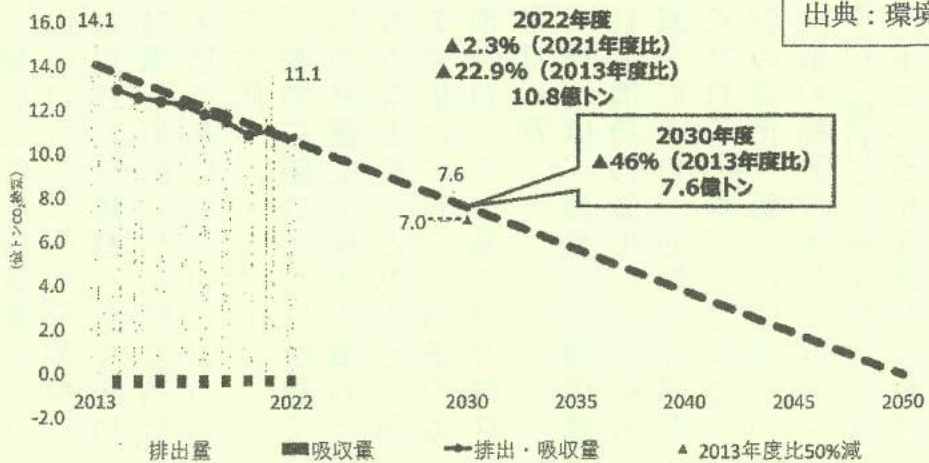
ゆうメール

NO. 249 2024.5 NPO法人恵那山みどりの会

2030年度目標及び2050ネットゼロに対する進捗



- 2022年度の我が国の温室効果ガス排出・吸収量は約10億8,500万トン（CO₂換算）となり、2021年度比2.3%減少（▲約2,510万トン）、2013年度比22.9%減少（▲約3億2,210万トン）。
- 過去最低値を記録し、オントラック（2050年ネットゼロに向けた順調な減少傾向）を継続。



1

森林の吸収量は樹齢の高齢化で温室効果ガスの吸収量前年度比 6.4%減
新たに、海藻の藻場の吸収量35万トン 環境配慮型コンクリートの吸収量を17万トンを追加

令和6年度通常総会 5/19(日) 13:30 中央公民館2-1学習室

R6年度の会費納入をお願いします

ホームページ

恵那山みどりの会

検索

今NHKで放映されている朝ドラ『虎に翼』を興味深く観ている。初めて女性で弁護士になった三淵嘉子さんをモデルに伊藤沙莉さんが好演している。彼女の発する『はて?』というフレーズが巷に流行っているようだ。このドラマは常に疑問を持ち女性の法曹界進出に取り組んでいる様子がテーマとなっている。

出演者の中に彼女を支える穂高重親という教授がいますが、私が学生時代(法学部)に民法学者で穂積重遠という著名な学者がいたことを思い出した。女性の法律家を育成したことで有名ですが、勉強に不真面目だった自分が今でもこんなことだけは覚えていて、そんな感慨で今観ている。その教授が法には「正解がない」と言っていて、六法全書は絶対だと思っていた女

学生に混乱をもたらす。

また、覚えているのは「法と歌心」という私が学んだ教授が言っていたこと。歌心のない法律家は人を裁けないということなのである。法律が制定された趣旨と刻々変わる時代背景を斟酌し、判断するためには人格を高めなさいということだったと思う。

今や、裁判に勝つためには黒でも白という弁護士や検事の裁判行為はいかなものかとも思う。民主主義の劣化とともに、司法の劣化に危惧を持つのは私だけではないのではないか。

翻って見れば、当会も会員の高齢化、社会情勢の変化による新入会員の減少により、活動の停滞を余儀なくされている。このころ、活動内容の深化、新しい活動への挑戦への取り組みが十分とは言えない。体力・機材・知見・伐採活動場所の不足というんな課題を挙げればきりが無いが、知恵を出せば少しずつ解決できると思う。

当会の強みは、なすの森、雑木林

窯、福岡の薪場があるということである。ここを活用し、市民参加の活動を企画・実践することで次の展望が見えてくるのではないか。また、会員を増やすことも急務だが、そのステージに行く前の体験イベントや共助の活動を通じ、当会の活動への理解と共感を得るよう努力する必要がある。

新しい年度に向けて、理事並びに会員の皆んの力を借りて全員で新たな活動目標を作っていくと思う。その為には、今やっていることに「はて?」という視点を持つ必要がある。何か器材が抜けているのではないか、スパイスを入れ忘れていないか?そもそも今これが必要なのか?等々

とは言いつつも、何が正解なのかは直ぐには思いつくものではない。団体の活動を調べたり、自分が興味を持っているものが生かせないかなど自分なりの知見を広めて挑戦する事が必要なのではないか。

森づくりだより

早川宏之

駒場 庭木伐採

二月十六日(金)、十七日(土)各四名二筋の進入路に囲まれた三角地帯の両端にある大径木の櫓二本の伐採である。

生活道路から成瀬家への引込配電線が進入路脇の休耕田の上空を通っており、七十cm超の櫓の枝先が引込線上まで伸びている。

櫓を寝かせる方向としては引込線と並行しなく、寝かせる前に枝を落とす必要がある。ロープを掛け樹上に昇り下部の枝から中間あたりで切り落としていったが、上部の方はそれほど引込線に影響がないと判断して昼過ぎに樹上作業を終了した。

午後、慎重に受け口を入れ芯切、追口切をしてほぼ引込線と並行に寝かせたが、切落とさなかった上部の枝二、三本ほどが引込線をたたいて二本を弛ませてしまった。幸い停電はしなかったが中電のお世話になることとなった。

とりあえず、枝払いを行い、一部玉切りをしたが、進入路上に見事に寝た材は人力では何ともならず、ある程度整理して一日目の作業を終了した。

二日目 一日目に寝かした材の福岡への搬入作業を行った。
人力では何ともならなかった材でも機械力は違う。軽々と荷台へ運び昼過ぎまでに二回(四杯)で一日目の櫓を福岡へ運び込んだ。

その間に生活道路側のもう一本の櫓を寝かす準備をしたが、見積もり、段取りの不備で樹上作業がとんとはかどらず、二日目の作業を終えることとなった。

二日の作業で見積もったが、とんだ見込み違いである。工法、段取りをもう一度見直して、作業日数もあと二日ほど見なくてはならない。えらい大赤字の受託作業となってしまった。

三月七日(木) 三名

八日(金) 六名

駒場での三日目の作業、七日は当該櫓を寝かすのに支障となる隣接する櫓の枝払い作業から着手した。

枝と言っても地上三mほどの位置が株別れしていて、幹に匹敵する直径約三十cm長さ約十mほどであり、例の引き込み線方向に伸びている。

同じミスを繰り返さないために、当該木の幹からの吊切り工法を選択した。しかし、技量不足のため吊りロープの支点とする近くヘクライミングロープを取り付けられず、かなり離れた位置からのため移動が困難を極めた。

何とかイメージした吊りロープの取り付けができ、昼前に無事枝を降ろすことができた。

午後から当該木の伐倒方向と真逆の道路上に伸びている枝、並びに隣接する櫓と干渉する枝の吊切りを行った。

下の枝から順番に降ろしていったが、幹は株別れし、枝も横に長く伸びているため、枝の途中にロープを取付け、元に戻ってチェーンソー操作、次の枝へ移動と、杉やヒノキの針葉樹と違い広葉

樹は幹の株別れ、枝の広がり半端ない。

道路上の枝の吊切りを気分よく行っていたが、チェンソーが気分を害したのかエンジンのかかりが悪くなり、本日には終了できそうもなく、翌日の段取りを行い三日目の作業を終えた。

四日目 昨日の続きの枝の吊切りと細かい枝のチップ処理を行った。

松を挟んでいる枝を含め上下移動、横移動を繰り返し、そこそこの太い枝から細い枝まで、当該木を支障なく寝かせられるようになり神経と体力を使った。

三日目までに切った細かい枝のチップ処理は順調に進み、午後には切り下ろす枝を待つ状況となった。

何とか問題なく寝かせられる状況になったが、本日もタイムオーバー、クライミンググロップ等を片付けていたら、次の作業に移る時間がない。樹上にある吊切りのためのグロップ等を地上に降ろし、次回確実に寝かせられる段取り

をして四日目の作業を終えた。

三月十五日(金) 二名

五日目 苦勞して枝を切り下ろした本体を寝かす作業となった。

本体である幹のほぼ中間の高さにグロップを取付け、チルホルの設置も終えた。

受け口の方向深さを慎重に入れ、芯切を行い追口を入れた。念のためくさびを打ち込み、ツルの幅も慎重に図って残しくさびの打ち込み、チルホルの取り込みを行った。取り込みもそれほど重くなく、追口が徐々に広がりほぼ想定通りに寝てくれた。

枝をほぼ降ろしてといえ、株別れの多い広葉樹である。寝てからが一仕事で何とか昼までに枝払い、玉切りを終了した。

午後、薪材として幹を主に福岡へ搬入、二回目に小型チップパーで処理できなかった少し細かい枝を雑木林に搬入して駒場での作業を終了した。

高山薪炭材調達作業続き

三月十一日(月) 五名

十三日(水) 十四日(木) 各五名

高山での十日目の作業は、使用している農道の整備作業を行った。

一度目の搬出の時に入り口付近の力グロップ地点へダンブ一杯碎石を入れたが、三月に入ってから冷え込みがぶり返し軟弱な状況が解消されていない。また作業箇所周辺もよく動き回るため荒れており、出口付近の下り坂も軟弱な状況のため整備することとして、ダンブ五杯碎石を入れ農道整備に一日を当てた。

十一日目の十三日は、寝かせて玉切りをしたままのアベマキを、積み込みやすい位置への集積作業を行った。

作業箇所上部に寝かせてあるアベマキを、グロップウィンチにて農道側へ引き降ろす作業を行った。何本目の太いアベマキを引いたときかなりの荷重が掛かったようで、グロップの表面が摩擦熱により溶け、破損してしまった。

ン等も生えておるためこれの伐採と、

その後の作業性を考えチップパー処理をすることとした。

道路上には配電線が通過しており、竹は道路側に傾斜しているためグロップを取付け、一名がグロップを引きながら確実に作業範囲へ倒しチップパー処理をしていった。

久しぶりのチップパー作業であったがチップパー機も機嫌を損ねることなく確実に稼働し、一日でこちらの想定した作業範囲を終了した。

翌日、杉五本とケヤキ一本の伐採に入った。ケヤキの伐倒準備と並行して、ケヤキの手前にある低木が支障となるため、これの伐倒を行った。

ケヤキを寝かす方向に滑車を取り付け、クサビと併用してチルホルで牽引し、想定通りに寝かした。

残る杉五本もクサビとチルホルの牽引で、竹等を伐採した範囲内に寝かして、都度枝払い、3mの玉切りを行い作業終了と思ったが、ここで、竹の伐採範囲と杉等の処理方法について、依頼

者との勘違いが露わになった。

竹の伐採範囲を再度確認し、後日処理することでお互い了解した。杉等の処理についてその時に再確認することとした。

三月二十八日(木) 三名

前回作業時再確認した道路わきの竹の伐採である。

作業前に道路上の配電線に近い竹とすること、道路から約2m範囲を伐採することを確認した。

また、杉の処理についても今回伐採する竹とともに枝のチップパー処理、3mに玉切りした幹をある程度集積するというところで、今回の伐採とは別途処理であることをお互い確認了解した。

道路際の竹の伐採は、前回と同様にグロップを取付け、確実に作業範囲内で処理していった。時々つるがらみ、枯れて折れた竹があり思うように伐倒できないこと、たまにヒヤリハットすることがあったが、昼前に無事終了した。

強度が落ちるので破損箇所を取り除

き、残りのグロップで作業を続け、上部に寝ていたアベマキの集積を行いこの日の作業を終了した。

十二日目の十四日、昨日集積したアベマキを朝から搬出したが、農道出口付近の軟弱さが解消されておらず、急遽碎石を一杯入れて整備した。

その間、里道にあるアベマキの集積作業を、軽トラをアンカーとして行った。

里道上部に寝ているアベマキも同じ要領で里道に集積を行い、この日三回の福岡への搬入作業を行った。

千旦林 杉五本、ケヤキ伐倒

三月二十一日(木)

二十二日(金) 各四名

昨年道路わきの杉一本を伐倒した方からの依頼で、少し離れた個所の同じく道路わきの杉五本の伐採である。

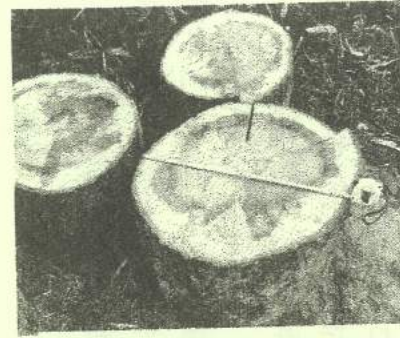
杉を寝かす場所にはかなりの範囲で孟宗竹が生えており、又ソヨゴ、ナンテ

【定例作業日誌】
森林資源活用部 伊藤 守

三月一八日(月) 晴れ 八人
三月二四日(日) 曇り 五人
四月九日(火) 雨後晴れ 六人

薪づくりを始める。

三月の定例作業日は、雨ばかりで、高山から調達した「薪材」は福岡薪置き場で、ヤマガキ隊の皆様の協力で作業を始めた。長さ四十cmの玉切り、薪割り機で分割、棚積み作業です。運び込まれた薪材は、アベマキが主でコナラ・クヌギを含み2トトラツク二十車分になり、総容量は概算



径 70 cmのクヌギ? 樹高がどれだったか気になります。年輪は、約 80 ありました。

で三十m位だろうか。調達先は、高山と西山でした。今回の薪材は、大径木のものも多く、最も大きなもので径七十cmもあり、移動させるも大変。腰を痛めぬよう大径木は、四分割して薪割り機にかけた。

ここ数年は、薪材の調達に苦労し、お客様に迷惑をかけてきました。今は薪完売、在庫ゼロとなりました。来年の薪材確保の予約もでき、少し余裕が出来ると思います。

鳥の話

愛鳥週間(五月十〜十六日)はまだ先ですが、我が家で起こった野鳥にまつわる話。



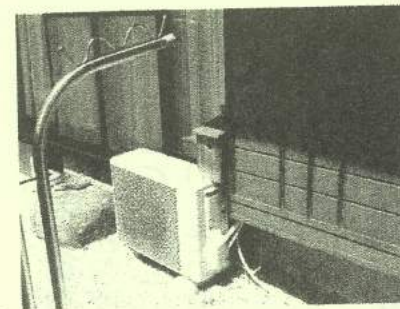
ジャンヒゲの碧い実を食べに来たキレンジャク

「キレンジャク」

四月初めに、ここ三年ばかり飛来の途絶えていた冬鳥のキレンジャクが来訪。(コロナ感染で海外旅行を控えていたか?) 十一羽・四羽と二群が入れ替わり飛来。それぞれ二日ほど滞在、姿を消した。

「シジュウカラ」

室外機の上に放置していた巣箱にシジュウカラが巣作りを始めた。三月の終わり頃から、「ツピツピツ」と電線に止まっているオスの囀りをよく聞くようになった。四月に入るとコケや羽毛を啜えたメスが、辺りを警戒しながら巣箱に入るのを確認した。



巣箱は洗濯干し場の前、連れ合いに干し場の移動をお願いする。人の出入りの多い所だが、何とか巣立ちしてほしいものだ。

2024年 5月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
5日	日	13:30	役員会	事務所	担当・役員	
12日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
14日	火	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
19日	日	13:30	通常総会	中央公民館	会員	2-1学習室
20日	月	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
28日	火	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
29日	水	13:30	企画会議	事務所	担当・役員	

6月 イベントと森の学校の予告

日	行事内容	会場	備考
日			
日			
日			
日			

編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。
また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。
森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連あるご意見などをお寄せください。
関係の深い記事など通信に記載します。
イラストなどもお寄せください。

発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会
理事長 河内 龍二
事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13
(TEL・FAX 0573-65-1366)
13:00~16:00(水・土・日・祭日休み)
メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp

2024年 6月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
2日	日	13:30	役員会	事務所	担当・役員	
9日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
11日	火	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
17日	月	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
23日	日	9:00	編集会議・ヤマガキ隊	事務所・なすの森	会員・一般	
25日	火	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
26日	水	13:30	通信発行・企画会議	事務所	担当・役員	

7月 イベントと森の学校の予告

	行事内容	会場	備考
日			
日			
日			

編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。
 また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。
 森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連ある
 ご意見などをお寄せください。
 関係の深い記事など通信に記載します。
 イラストなどもお寄せください。

発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会
 理事長 河内 龍二
 事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13
 (TEL・FAX 0573-65-1366)
 13:00~16:00(水・土・日・祭日休み)
 メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp